

3. 活動内容

1 ユネスコスクールとしての取組

【第3学年の実践より】

テーマ：伝統文化を体験しよう

金沢市内の様々な伝統文化を継承している方々から、その技を体験させていただき活動を行った。本年度は「書道」「加賀鳶」「加賀水引」「茶道」「和菓子づくり」を行っている方々に来校していただき、体験を通してそれぞれの技に触れる貴重な機会を得ることができた。

児童はこの活動を通し、伝統文化の継承に尽力をつくしている方々が身に付けている技に感動を覚えただけではなく、そのような技を体得している方へ尊敬の念を持ち、またそのような伝統文化を継承している金沢という地域そのものに愛着を感じることができたようである。これらの体験活動は、学んだことを他へ伝える“扇台発信”の題材としても発展的に扱っている。

特に「加賀鳶」の体験では、本や図鑑などを使って調べただけではなく、子供用の“練習はしご”を使って実際に技を体験し、その難しさを体感することができた。同様に「加賀水引」体験でも、実際に水引細工を作ることで、その価値を考える機会となった。



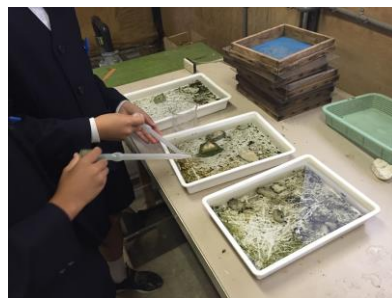
【第4学年の実践より】

テーマ：ホタルが住みよい環境について考えよう

本校には中庭に“ホタル飼育小屋”がある。約35年まえにホタルの飼育実践に取り組んだ際に建築されたものである。以降、ここ数年、ホタルの飼育は第4学年が受け継いでおり、本年度も継続して取り組んだ。

学校としては歴史がある取り組みであるが、第4学年の児童にとっては、ホタルの成虫を見たことはあっても、飼育する体験は初めてである。顕微鏡で観察するくらい小さい幼虫から、エサやりや水かえ観察日誌の記入など、夏休みも休まず行った。

児童にとってこの活動は、「ホタルにも人にも住みやすい環境」について考える機会にもなった。そしてホタルの生命のはかなさ、それでもつながっていく命の重さを感じたようである。さらに、ホタルが住みよい環境を作っていくのは自分達であることを自覚し、保護者と他学年に向けてホタルの一生や育て方、ホタルが住みやすい環境を維持していく必要性などを、“扇台発信”の題材として他へ伝えることができた。



【第5学年の実践より】

テーマ：よりよくしよう！わたしたちの高橋川

校区を流れる高橋川に焦点を当て、その環境・川に関する人々の暮らしの移り変わりを学ぶ学習である。

まずは、高橋川の実態を知るため川の掃除と水質調査に取り組んだ。この活動によって、普段目にして入るけれども、それほど関心を持つことが無かった高橋川の汚れに課題意識を持つようになった。

次に行ったのが、地域の方々に昔の高橋川の様子をイン



タビューする活動である。

これによって、洪水を防ぐための護岸工事によって高橋川が姿を変えたこと、また、かつてはホテルが飛び交う姿を見ることができた川であったことを知り、前述の課題意識とあいまって、身近なことから環境問題について考える機会となった。

さらに、地域の方々への聞き取り調査は、夏の地域行事として参加している「扇台川祭り」の始まりを知ることにもなった。このように、高橋川から地域の歴史と人のつながりを感じることで、この環境と歴史を守ろうとする自覚が児童に芽生えたようである。



【第6学年の実践より】

テーマ：夢のコンサート～自信と誇りとつながりを～

本年度も、校内の集会を始めに老人ホームなど、様々な場面や場所で演奏活動を行った。ここ数年行っている、最高学年のこのような演奏活動は、下級生にとって目指すべき姿として定着してきている。

演奏活動の過程では、様々な国の楽曲や楽器を扱うことで、異文化と交流しそれを理解する一助にもなったと思われる。また合唱や合奏は、一人一人の歌声や奏でる楽器の音色が重なり合い、一つの曲として完成する経験ともなっている。このような協同的な活動経験は、一人ひとりの個が集団にとって重要な存在であると同時に、自分の隣にいる友達もまた同様な存在であることを、活動を通して体で理解する機会になったと考えている。



さらには、演奏を聴いていただく人々との関わりを通し、自分達を支えてくれている家族やこれまで様々なことを教えて下さった方々への感謝の気持ちを持つことができた。

2 成果と課題

成果の一つに、ともすれば受動的な本校の児童が、主体的かつ能動的な学びの姿を見せ始めたことが挙げられる。地域に根ざし、かつ体験的活動を中心にすえた学習が、活動を好む傾向にある本校児童の意欲を引き出したのだととらえている。身近なものが題材であれば、日常生活経験からその題材に関して何らかの知識を得ているだろう。この既存の知識を活用することで自分なりのものの見方や考え方を引き出し、意欲が喚起されたととらえている。持続可能な開発のための教育という観点から、知識を活用・応用する経験を積ませる良い機会を得ることができたと考えている。

二つ目は、児童の地域への愛情がつよまったことである。本年度の実践には、どの学年にも地域の“人・もの・こと”と関わる活動が組み込まれている。これらと関わることによって、校区や金沢市など、自分たちが暮らす地域に関して、様々な伝統や文化・自然・歴史について学ぶ機会を得ることができた。この学びが地域への誇りと愛着という心情につながったと考えている。これは、より良い社会の形成に参画する資質と能力の育成に寄与する活動だととらえている。

一方、課題も残されている。

一つは、自分たちなりにできる社会貢献を児童に意識させる必要を感じている。例えば、環境問題に取り組み、現状を理解して自然環境の維持や保全の必要性を感じてはいる。しかし、持続可能な開発のための教育としては、それだけでは不足である。その環境の維持や保全に向けて自分なりに一歩を踏み出すような、児童自身の活動が必要であろう。今後、よりよい社会を創造するための活動の一つとして行っているという意識付けが必要だと考えている。

いま一つは、実践内容の見直しである。他校との交流や小中一貫教育を考慮にいれてカリキュラムを見直す必要性も感じている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）